

令和5年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 秀峰会	代表者	櫻井 大	法人・事業所の特徴	同法人は、「横浜の大地に住まう人々の、生活障害の軽減を支援する願い」を持って事業活動を進め、市内全域で介護分野の全ての形態の事業を展開し、100ヶ所を超える事業所を運営しています。「ひなげし」はご利用者にとって、いつでも通えて泊まれる『近所にあるもう一つの家』と思っていただける施設でありたい。また、介護職員、看護職員が連携してご利用者様を見守る目と支える手として機能したいと考えています。
事業所名 (南区)	小規模多機能型居宅介護 ひなげし	管理者	土屋 由太		

出席者数	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
			1人	1人		1人		1人		4人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所の目標や職員個人の目標に対しヒヤリングやスタッフミーティング等の場で進捗の確認、共有をしていく。	事業所目標はスタッフミーティングの際に進捗の確認をして個人目標はヒヤリングの場で進捗の確認が出来た。	事業所の自己評価はしっかり出来ていると思う。	事業所目標に対する個人目標を設定しミーティングやヒヤリングで進捗の確認や共有をしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	委員会メンバーを中心に環境整備を継続していく。外部からの人の受け入れを意識し取り組んで行く。	委員会メンバーが中心になって環境整備は出来た。環境整備員も採用し日々の掃除も出来た。	気になることはありませんでした。内扉の鍵は掛かっていました。	委員会メンバーを中心に環境整備を継続していく。外部からの人の受け入れを意識し取り組んで行く。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナを言い訳にせず地域の活動やボランティア活動を増やしていく。	ボランティアの受け入れは再開出来た。しかし回数としては少なかった。	挨拶は出来ていた。地域のイベントには参加していない。	外出の機会を増やすし地域のイベントにも参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	住み慣れた地域でより長く暮らせる支援をご利用者個々に考え実践していく。	事業所の外に出る機会は増えたが、地域との会議やイベントには参加出来なかった。	地域の中で知られる存在になっているかはわからない。	住み慣れた地域でより長く暮らせる支援を地域の人を交えて実践していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議でいただいた情報や事業所に対するご意見を運営に活かしていく。	地域の情報などをいただき活動に活かすことは出来た。	会議内の説明で事業所の取組みが理解出来ました。	運営推進会議で事業所の活動を紹介しご意見を運営に活かしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	避難訓練や災害時発生時の訓練など業務継続計画をもとに対策を構築していく。	計画や訓練は実践出来た。地域の訓練に参加は出来なかった。	事業所の防災計画は把握出来ない。訓練に参加したこともない。	災害時に生きる計画と訓練を実施する。